

1. 学習の到達目標 国語を適切に理解し活用する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力と心情を豊かにし、その向上を図る態度を養う。

2. 使用教科書 『探求現代文B』（桐原書店）

3. 指導計画

時期	学習内容（単元）	学習のねらい
2年前期	4月 (随)『自己とは何か』	・筆者の意見をまとめ、考えを深める。
	5月 (小)『山月記』	・小説の構成を理解し、鑑賞の仕方を学ぶ。
	6月 (前期中間考査) (評)『行動としての話し言葉』	・筆者の主張を捉え、話し言葉について考える。
	7月 (詩歌)『天景・猫』 『永訣の朝』 (夏季休業)	・短歌の表現形式や表現方法、鑑賞方法を学ぶとともに、各作品の視点や情景を読み取る。
	8月 (評)『科学者とは何か』	・現代科学が直面している事態を読み取り、解決策を考える。
	9月 (前期期末考査)	
2年後期	10月 (秋季休業) (小)『靴の話』 (修学旅行)	・客観的に小説を読む力を付ける。
	11月 (評)『「である」ことと「する」こと』	・具体から抽象への論の展開、その飛躍の仕方を理解する。
	12月 (後期中間考査) (評)『木を切る人／植える人』 (冬季休業)	・自分と環境問題について考えを深める。
	1月 2月 (小)『こころ』	・時系列や作中人物の関係と心情の変化を把握し、小説の理解を深めるとともに、「先生」の姿を通じて人間の在り方を考える。
	3月 (評)『言葉の意味と表徴』	・日本語、日本文化の課題について考察し、根拠を示

4. 評価規準と方法

評価規準 評論 文章を論理的に読み進め、読解力を高めつつ、自分の意見をまとめることができるかどうか。

小説 作者の感じ方や登場人物の心情を理解し、自分の言葉を用いて意見をまとめることができるかどうか。

評価方法

定期考査、課題提出物などの内容と提出状況、学習活動に臨む姿勢以上についてそれぞれを得点化して総合して評価する。